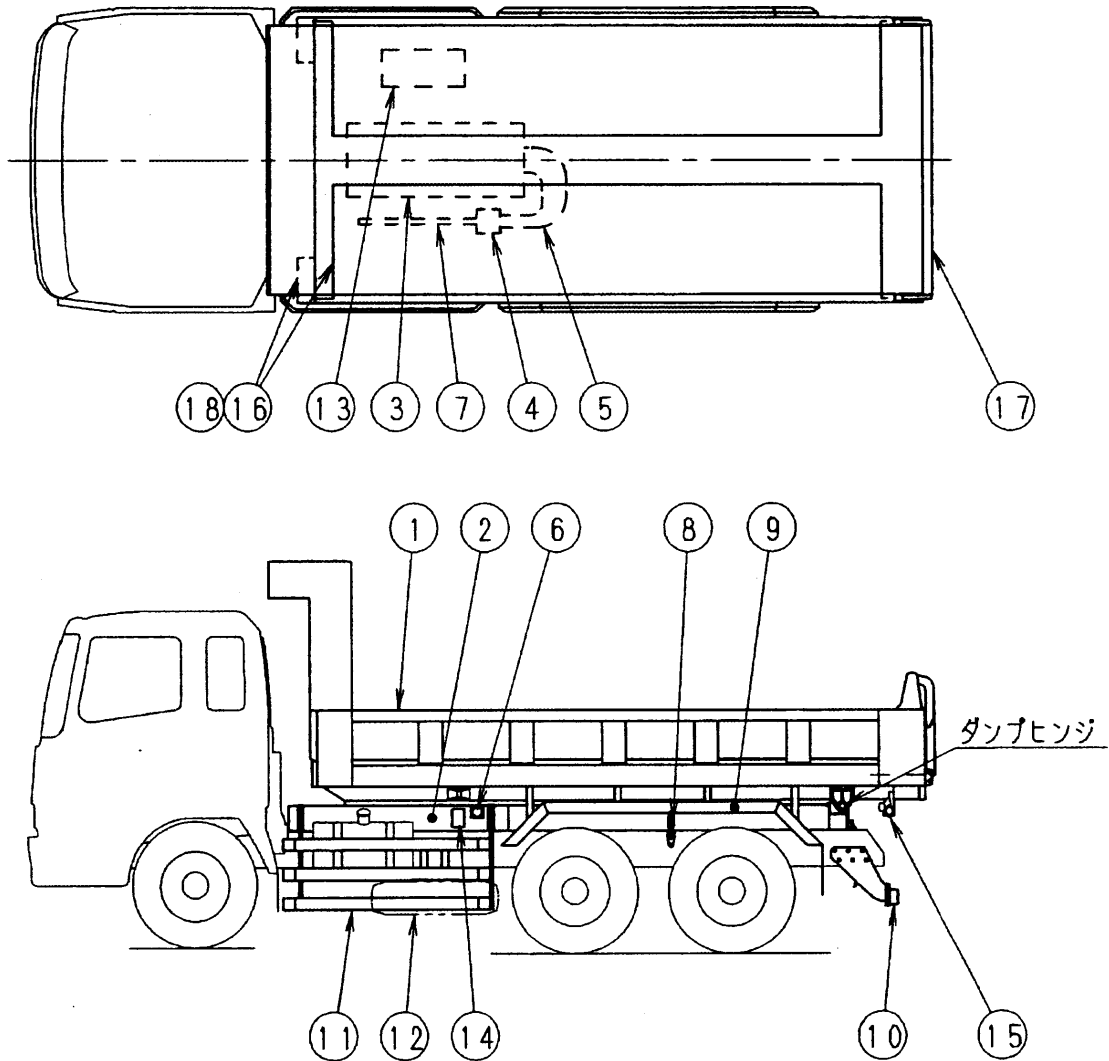


解体マニュアル ダンプ車

- ・本解体マニュアルは、弊社が製造するダンプ車の解体に関する事項を載せたもので、解体マニュアル共通編と併せてご覧下さい。
- ・本解体マニュアルは、解体に関する参考資料としてご提供するもので、実際の解体作業におかれましては解体事業者様のご判断にて作業を進めて下さい。
- ・本解体マニュアルに記載の内容は、予告無く改訂することがありますので予めご了承下さい。

ダンプ架装物解体マニュアル 各部名称



(注記) 上記図は一般的ダンプを例に表示しており、車格及びダンプ仕様により形状等が異なる場合があります。

番号	各部名称	番号	各部名称
1	ダンプ荷台	10	リヤバンパー
2	サブフレーム	11	サイドバンパー
3	ダンプホイスト機構	12	スペアタイヤキャリア
4	ポンプ	13	ツールボックス
5	配管&ゴムホース	14	グリス給脂装置
6	自重計&ホース	15	外装部品
7	ドライブシャフト	16	飛散防止装置
8	Uボルト等	17	テールゲート等のパッキン
9	リヤフェンダー	18	天蓋

ダンプ架装物解体マニュアル

品目番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理・1	ダンプ荷台が空であることを確認し、外装部品を取外して下さい。 (サイドバンパ、スペアタイヤ、ツールボックス、リヤフェンダー等)	取扱説明書の安全作業に準じて下さい。
	事前処理・2	荷台が下りた状態(走行状態)で作業します。 ダンプ用ポンプの低・高圧のフランジを外し、作動油を抜いて下さい。 オイルパンは油圧機器を取り外すまで、用意して置いて下さい。 標準型の作動油量は、大型車約35リットルです。	作動油を受けるためのオイルパン等を用意して下さい。
車両全体	ダンプヒンジ	ダンプヒンジのピン又はシャフトを抜いて下さい。	周囲の安全を確認して下さい。
車両全体	ダンプ荷台全体	天井クレーンを使用して、ダンプ荷台を水平に吊り上げて下さい。	ワイヤ掛けを確実にを行い安全確認して下さい。
車両全体	ダンプ荷台降ろし	ダンプ荷台とダンプホイスト機構を繋いでいる、ピン・ボルト等を外し、ダンプ荷台をシャシから降ろして下さい。	クレーン等を使って安全に注意して下さい。
車両全体	ダンプホイスト機構	オイルタンク、配管等を外し、ダンプホイスト機構を降ろして下さい。 ダンプ用ポンプ、ドライブシャフト等を外して下さい。	クレーン等を使って安全に注意して下さい。
車両全体	サブフレーム固縛	Uボルト等を外して、サブフレームをシャシから降ろして下さい。	クレーン等を使って安全に注意して下さい。
1	ダンプ荷台	溶断等により裁断し、材質により分別して下さい。	切断フェーム、粉塵等に注意して下さい。
2	サブフレーム	溶断等により裁断し、材質により分別して下さい。	切断フェーム、粉塵等に注意して下さい。
3	ダンプ ホイスト機構	ダンプリnkは金属類と樹脂類(ブッシュ)に分別して下さい。	
4	ポンプ& 油圧機器	各機器から油を抜いて下さい。 油圧機器(シリンダー、ポンプ、バルブ等)は適切に処理して下さい。	オイルパン等を用意して下さい。
5	配管& ゴムホース	内部残油を抜いて、金属類とゴム類に分別して下さい。	オイルパン等を用意して下さい。
6	自重計&ホース	内部残油を抜いて、金属類とゴム類に分別して下さい。 (大型土砂ダンプに装着され、一般には装着されていません。)	オイルパン等を用意して下さい。
7	ドライブシャフト	取り外し、分別して下さい。	
8	Uボルト等	取り外し、分別して下さい。	
9	リヤフェンダー& マッドガード	金属類とゴム、樹脂類に分別して下さい。	
10	リヤバンパー	取り外し分別して下さい。 反射板等が付いている時は、金属類と樹脂類に分別して下さい。	
11	サイドバンパー	取り外し、分別して下さい。	
12	スペア タイヤキャリア	取り外し、分別して下さい。	
13	ツールボックス	取り外し、分別して下さい。	
14	グリス給脂装置	金属類と樹脂類(グリスチューブ)に分別し、グリスとチューブは適切に処理して下さい。	
15	外装部品	取り外し、分別して下さい。	
16	飛散防止装置	取り外し、金属類とシート類に分別して下さい。 電動モーターが有る場合は配線も分別して下さい。	荷台に溶接取付されている場合が有ります。
17	テールゲート等の パッキン	荷こぼれ防止のため、パッキンが装着されている場合は金属類とゴム、樹脂類に分別して下さい。	パッキンが接着されている場合が有ります。
18	天 蓋	飛散防止等のため、手動式、油圧式等の天蓋が付いている場合は金属類とゴム、樹脂類に分別して下さい。	荷台に溶接取付されている場合が有ります。